

行政視察報告書

厚生環境教育常任委員会委員長 玉置 真一

1 日 に ち	令和4年10月 4日 (火)
2 視 察 先	大阪府吹田市
3 参 加 者	【委員長】玉置真一【副委員長】三輪寿子 【委員】寺島芳枝、若尾敏之、加藤元司、井上あけみ、嶋内九一 【清掃事務所長】加藤義人【議会事務局】虎澤智子
4 調 査 内 容	資源リサイクルセンターについて
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	リサイクルセンター「くるくるプラザ」にて、環境部環境政策室担当より説明を受け、施設見学を行った。 吹田市は第3次一般廃棄物処理基本計画にて、市民一人一日あたりのごみ排出量を削減していくことでごみの減量を進めている。社会的にも食品ロスやプラごみの削減、SDGsへの取り組みも積極的に行われている。 「使い捨てなどのライフスタイルの見直し」「限りある資源を有効に使う」「豊かな自然と共に生きる」「MOTTAINAI(もったいない)」を環境に関する課題解決のキーワード(基本理念)とし、2R(リデュース・リユース)を優先したごみの減量、分別によるリサイクルの促進、食品ロス削減の推進、プラスチックごみ削減の推進、市民・事業者・行政の三者協働の推進を重点施策としている。 くるくるプラザでは、ごみを生かそう、くらしを見直そう、ごみは大切な資源です、をきっかけ市民への周知、啓発を発信している。 常時開かれている市民工房では、使わなくなった衣類などのリメイク、紙パックから紙すき体験、廃ガラスを使ったガラス工房、自転車を修理してリサイクル、再生粘土を使用した陶芸制作、家具の修理、木工製品制作など様々な取り組みがされていた。再生自転車やリサイクル家具は市民からの関心が高いとの事だった。 多治見市でも一部こうした取り組みはされているが、環境についての啓発活動の実践や体験する場として三の倉センター施設見学と同時に地球村施設内で常設できると良いのではないかと思う。 この種の施設は迷惑施設とされ、近隣から敬遠されることが多いが、現在協議中の広域ごみ処理施設についても、ごみイコール迷惑施設ではなく、関連した施設や工房等、住民がふれあえる空間を併設することにより理解が得られるものと考ええる。 質疑では、分別後のプラごみリサイクルについて、まだまだ課題が多いとの事であった。 市民、事業者、行政の三者が3R リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の意識を持ち、協力し、住みよい多治見市へのより一層の取り組みを次世代に伝えていくことが大切と考える。

7 写 真 等



【オブジェ】



【市民工房の活動】



【市民工房（布公房）】



【市民工房（紙工房）】



【市民工房（陶芸）】



【市民工房（木工工房）】



【市民工房（自転車工房）】



【視察中の様子】



【施設見学受入れ】



※視察先 1 件に 1 枚作成すること。